

## 竹田城跡第2駐車場を整備

竹田城跡の観光客数が増え続け、昨年度は約5万2千人の人が訪問。土日・祭日は特に多く、駐車場の数が不足していました。

このため、市は、竹田城跡中腹にある第1駐車場の山城の郷側に、普通車20台、マイクروبス2台が駐車できる第2駐車場を整備。4月22日から供用を開始しました。

また、利用者から改修の要望があつたJR竹田駅の男女兼用トイレについても、公衆用トイレとして整備しました。



事業費約2,200万円をかけて整備された第2駐車場

## 市在住の外国人に向けた生活ガイドが完成

朝来市連合国際交流協会は、市内に住む外国人約200人が、快適に日常生活を送れるよう、外国語による「朝来市の生活ガイド・緊急時対応マニュアル」を作成しました。

中国語、ポルトガル語、タガログ語（フィリピン）の公用語、インドネシア語、英語で作られた冊子には、市役所窓口の案内や、緊急時に必要な簡単な日本語、防災に関する情報などを記載。各支所の交流協会窓口を設置するほか、外国人雇用企業などへ配布する予定です。



A4サイズで10ページ。5000部が作成されました。

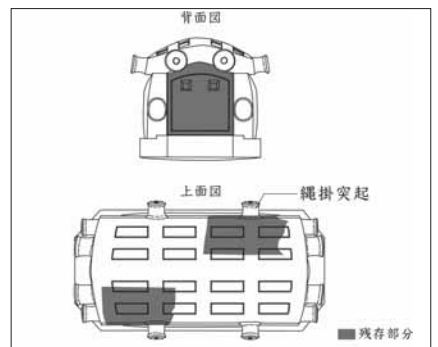
ンド品で、別名「王者のひつぎ」とも呼ばれています。しかも、兵庫県高砂市から加西市周辺で産出する凝灰岩(別名を竜山石)のみが素材として用いられ、遠く大和の大王や地域の有力首長層のもとに運ばれたのです。この但馬にも朝来市和田山町と豊岡市出石町に竜山石製の長持形石棺片が残されており、当時この但馬にも大きな力をもった人物が存在したと推定できます。

この石棺が納められた古墳は明らかではありませんが、但馬の中では最大の規模を持つ池田古墳(朝来市和田山町平野、全長約140m)の前方後



市内所在の長持形石棺(その2)

円墳)が最もふさわしいと思うのですが、皆さんはどう思われますか？



長持形石棺復元図

ところで、この長持形石棺を但馬で知られている石棺片から形や規模を推定して復元したものが市埋蔵文化財センターの玄関ロビーに展示しています。全体的に長持の形に似たスタイルとともに、縄掛突起と呼ばれる突出部や蓋石に刻まれた長方形の彫刻が特徴的なものです。長持形石棺のなかでも古い時期にあたり、4世紀の終わり頃に作られたものです。館内の展示とともに、この長持形石棺の復元品もぜひご覧になっていただきたいと思います。

(市教育委員会社会教育課)